

## 題: インターネットは完全か

名前:

インターネットをはじめとする情報技術はここ数年間で大きく進歩した。リアルタイムで世界各国から情報が届けられ、逆に自分から海外に向けて情報発信することも容易になった。さらに、新聞や雑誌をはじめとする紙を使用する媒体と違って、半永久的に内容を保存することが可能になった。

しかしながら、メディアはインターネットで十分だという意見には賛成できない。確かにインターネット上には多くの魅力的な記事が掲載されているが、そのすべてが正確な真実を伝えていると言えるだろうか。例えば、インターネット上に公開されている百科事典の「ウィキペディア」は、誰でもいつでも記事を編集、加筆することができ、加えられる内容が多く、速報性が高いとされている。一方で、「誰でも編集できる」という性質を持っているために、記事の信頼性が低く、正式な論文を書く際には引用することができない。また、新聞や雑誌の場合、記事の内容

には各社の主張が反映されていると、多くの国民は気付いている。選挙の翌日の朝刊を見れば、与党をひいきにしている新聞とそうでない新聞の見出しが大きく異なっているはずである。インターネット上の記事もまた、書く人によって内容が変化するのが、「インターネットは正しい」と思い込んでいる人も多い。ため、情報操作されやすいのが事実である。結果として、インターネット上の掲示板では、他国を批判したり軍事力を求めたりするような極右的な思想が幅をきかせることがある。

以上のことをふまえて考えると、インターネット上のニュースには不備が多くある。もちろんインターネットの長所であるスピードやネットワークは活用していくべきだが、新聞や雑誌などの媒体と併用していかなければならない。情報技術に過信は禁物ということである。